

地域資源「高島市内産建築用木材(スギ)」活用促進に向けた普及事業【滋賀県】

事業概要

県産木材の活用促進および地域の住宅産業の活性化等を図るため、地域資源「高島市内産建築用木材(スギ)」を活用した家づくりに関するセミナーの開催や展示住宅での説明など、情報発信、普及啓発事業を実施する。

委託先

一般社団法人 安曇川流域・森と家づくりの会  
(滋賀県大津市)

雇用創出数

1人

事業費

平成21年度 約366万円 (実績)  
平成22年度 約694万円 (計画)

事業開始時期

平成21年9月

新規雇用者が従事する  
業務の内容

- 展示住宅“もりいえ”の説明(来場者対応、資料・展示物の企画制作等)
- 普及啓発資料(住宅雑誌記事、イベント告知チラシ、ウェブサイト、ニュースレター等)の企画、情報収集・整理、雑誌社との調整等

雇用創出効果以外の  
事業実施効果

- 流通システムが未発達な地域資源「高島市内産建築用木材(スギ)」について、本事業において実施する普及活動を通じて認知度向上と需要の顕在化ができ、滋賀県が推進する「県産木材の活用促進」に向けた産業基盤の構築、地域の林業・住宅産業の活性化を図ることが可能となる。
- 地域の森林資源を活用することは、経済性を伴った形で森林の適正な管理を行うことを可能にする。このため、琵琶湖水源の森林整備を持続的可能な形で後押しすることができる。

滋賀県



地域の雇用失業情勢  
(事業開始時の有効求人倍率)

滋賀県 0.36倍(季節調整値)



展示住宅見学者への説明

## 新規雇用者の声

- 失業中でしたが、当事業により雇用機会をいただき感謝しております。
- 地産地消の家づくりの普及啓発事業に携わり、改めて地域にある素材、人材が十分に活かされていないこと気がつきました。“もりいえ”が住宅展示場の枠を超え、地域にある個々の力をつなぐ拠点となり、新たな流れを作ることで雇用や仕事が生まれるのではないかと感じています。

## 委託先事業者の声

- 当会の課題であった情報発信を充実できました。これは、専属スタッフを雇用したからこそできたことです。本事業を活用したことで、当会の活動は大きく進展したと実感しています。
- 常勤スタッフがいることで、林業や住宅産業の枠を超えて地域の人的ネットワークが広がりました。

## 事業の利用者の声

- 木をたくさん使った家の気持ち良さを知った。地域産木材で家が建てられることは理に叶っていると思った。
- どの程度の木材がどのような頻度で活用されたら経営として成り立つのか、林業の課題等、源流主義的なことについても知りたいと思った。
- 地域の木材を使い、地域の職人さんに建てていただく家。このような流れが持続的に発展していく活動に参加したいと考えています。

## 今後の事業展開

- 本事業終了後においても、展示住宅を拠点とした普及啓発活動を継続しつつ、地域の林業・住宅産業活性化の基盤として、地域資源「高島市内産建築用木材(スギ)」の流通支援や、「地域の森とつながるライフスタイル」提供などの事業化を進め雇用を継続したい。
- 当会は、任意団体として事業を行ってきたが、雇用の受皿として自立・継続的な事業運営体制を強化するため、平成22年3月に法人化(一般社団法人)した。今後も、いっそう責任ある事業運営を行いたい。



住まいづくりセミナーの開催



森林でのワークショップ